

2012 年 7 月 20 日

医薬経済・イノベーション評価研究会（略称：キヤノン HTA 研究会）

2012 年 7 月 18 日（水）開催 第四回研究会記録

<特別講義>

- ・テーマ：米国の経済成長のエンジンである IHN について

～UPMC & Sentara Healthcare～

- ・講演者：キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 松山幸弘氏

米国で成功している Integrated Healthcare Network(IHN)の例としてピッツバーグ大学医療センター（UPMC）と Sentara Healthcare の概要について紹介。それら IHN が効率的かつ安定的に経営を実現する仕組みや、非営利事業体として利益を慈善医療、地域健康プログラムに還元し、教育や研究活動を展開することで組織内の医療の質の向上を図っている実態について解説。

<質疑応答>

以下のような活発な質疑応答があった。

- ・経営効率を重視する中で、臨床成績の低下などは起きないのか、
- ・IHN とマネージドケアの違いは何か、
- ・IHN の規模が大きくなり購買力が高まれば、薬の価格は下げられるはずであるが、なぜ高止まりなのか、
- ・カイザーパーマネンテのように保険者にクローズドな IHN では、非加入者への治療はどのような扱いになるのか、
- ・経営効率を重視すると、高額な医療については消極的になるのでは、など。

（記録：研究会メンバー 村田，富安，金子）